

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	017020078		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田2条2丁目6-18 (電 話) 011-775-7505		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】（平成19年12月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年10月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.55人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1～2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	32,000円～40,000円		
その他の経費（月額）	・ 光熱水費 20,000円 ・ 暖房費 7,000円（11月～3月）		
敷 金	有（ 円） <u>無</u>		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成20年1月23日現在)

利用者人数		6 名		男性 1 名		女性 5 名	
要介護 1		0名		要介護 2		2名	
要介護 3		3名		要介護 4		1名	
要介護 5		0名		要支援 2		0名	
年齢	平均	80.5 歳		最低	68 歳		最高 90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は古いがホーム内は温かい雰囲気、利用者と職員は馴染みの関係が深い。良いコミュニケーションを築きながら「共に生活していること」を実践しているホームである。ホーム内では体操、レクリエーション、外出などを積極的に行っており、利用者は活き活きとすごしている。24時間対応の連携医院からの往診のほか、週一回訪問看護を受けている。さらに、ターミナルケアをされたこともあり医療体制は整っている。運営推進会議も定期的に開催され、委員の協力により地域に理解されており、夏祭りには地域の人々も参加されるなど連携もよく地域密着型のグループホームを積極的に目指している。またホームヘルパー実習の受け入れ、法人内の他グループホームとの職員研修の情報交換、利用者同士の交流などももって生活の

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
①	改善へ向けて取り組んでいる。「ホーム便り」を発行して地域に回覧して啓発に取り組んでいる。浴室は、職員のフォローで解消に努めている。職員の接遇は問題は見られず利用者から信頼されている様子が伺えた。介護計画書の承認印、金銭出納簿の日付けはそれぞれ改善している。権利、義務の内容は表現は違いが明示してある。
重点項目②	① 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 施設長、管理者はじめ全職員が自己評価の意義や目的を認識し各項目について日頃の見直しを行い、検討して取り組みを図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2ヶ月に1回開催している。活動状況や日常の様子を報告し、意見交換を行っている。委員の町内会長が、事業所のことを町内の会合で説明し啓発に努めてくださり、地域の人々との交流が深まってきている。「ホーム通信」を回覧板で回覧ができるようになるなど、運営推進会議がホーム運営の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族訪問時には、コミュニケーションを大切にしている。行事も家族と一緒に参加して良い関係作りのきっかけになっている。重要事項説明書に内部、外部の相談窓口を明示しており入居時にも説明している。毎月通信を発行しているが、個人通信のように日常の様子や健康状態の他にも写真を貼り、家族が安心できるように努めている。
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会に加入して、管理者や職員は会合、行事、花壇作り、清掃などに積極的に参加している。ホームの夏祭に地域住民も招待している。町内の各家に緊急時の協力依頼のちらし（ホームの電話番号など印刷）を配布している。ボランティアも受け入れていて地域との連携に意欲的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭生活支援、残存能力の活性化の支援、有意義の人生のために」を理念として事業所内に掲げ、パンフレットにも明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の名札の裏に理念を書き、常に携帯されているが説明不足の点がみうけられ全ての職員が共有されているとはいえない。	○	日々の申し送り等で、理念の意義を確認して共有できるように取組むことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、管理者は会合にも出席している。地域の清掃、花壇作りにも参加している。散歩中に挨拶や会話を楽しみ交流を深めている。事業所便りを町内に回覧しており、夏祭りには町内の人を招待するなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員が理解をしている。自己評価については、ケアの見直しをするという視点で話し合い作成している。最終的に施設長、管理者、ケアマネジャーがまとめて作成している。前回の改善点にも取り組みサービスの質の向上に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所の状況や事業内容の説明報告を行っている。検討事項は出席委員と職員で話し合い、ケアサービスの質の向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市、区の主催する管理者会議に出席して連携を図っている。困難事例の時は相談する場合もあり、常に市や区と連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の事業所便りは個々にあわせた気くばりがされており、利用者の生活状況、健康状態を詳しく報告し、行事の時の写真も添付している。金銭管理も定期的に領収書を貼付して送付しており、来訪時には出納簿を確認してもらいサインも頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、気軽に話しができるように、雰囲気作りに心掛けている。事業所内の行事のビデオで、利用者、家族、職員が一緒に歌ったり踊ったりして楽しんでいる様子が伺えた。行事等が良い関係作りとなっていて、運営に反映されている。重要事項説明書には苦情相談窓口も記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前管理者の退職後は、馴染みの職員が管理者になっている。また、法人内の事業所から馴染みの職員を異動させるなどして利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。最近は退職者は少なく、異動などの影響は最少限に抑えられている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、事業所内研修を積極的に計画され実施している。外部研修の受講料は、施設が負担し時間内に参加できるように配慮して、職員育成に努めている。介護福祉士受験にむけての機会も確保されていて、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所とは、常に交流を図り研修会、行事を通じて相互のケアの質の向上に努めている。また、他法人事業所との交流も機会を作り情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に本人を訪問して、事業所の様子を説明し、本人の状況も把握している。また、本人や家族が事業所を見学して、場の雰囲気に馴染めるように利用者と共に過ごす時間を作り、安心してサービスを利用できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩として利用者に尊敬の念を持ち接している。作品作り、行事の準備なども力を発揮してもらい、教えて頂きながら共に支えあう関係作りに努めている。また、利用者が日々の生活を家庭的な雰囲気の中で過ごせる視点で関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や言動から一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。困難な場合は家族から情報を提供していただく場合もあり、本人がどのように過すことが最良なのか把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは担当者を決め記録している。月1回のケアカンファレンス、毎日の朝夕のミーティングの時間に情報交換して、利用者本位の介護計画を管理者と計画作成者が作成している。本人や家族の希望、意見を聞き介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。利用者の変化時は随時見直している。朝夕のミーティングの時の情報も取りいれて常に現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護、訪問診療、訪問歯科など定期的に行っている。外出外食なども希望に応じて柔軟に対応している。家族の宿泊希望時は、宿泊できるように寝具の準備もしてありその時々々の要望に応じて支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診は月2回、看護師は週1回訪問し健康管理に努めている。緊急時は24時間対応できる体制が整っている。入院必要時は病院を紹介してもらうなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応指針は定めており、入居時に本人と家族に説明している。最近、利用者のターミナルケアが実践された。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々のケアの中で、一人ひとりのプライドを傷つけないような言葉かけや対応を心掛けている。毎日のミーティングのとき、職員間でチェックできる体制を整えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりの好みや希望をよく把握している。味付け、食事の準備、カラオケ、作品作りなど本人の希望を尊重して本人らしさが出せるよう気くばりをしながら支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、同じテーブルで一緒に食事をしている。献立、味付けも利用者の希望を取りいれている。調理、準備、後片付けなど一人ひとりの力量や希望に応じて支援している。家庭的な食器を使用しており、食欲をそそるような盛り付けをするなど食事を楽しむことができる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴支援の他、希望時は随時入浴できる体制は整っている。特に夏期は、夕食後の入浴希望者に対応するなど臨機応変に入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の楽しみごと得意分野を把握しており、食事の準備、後片付け、洗い物、作品づくりや展示、ゲーム、カラオケなど力を活かし張り合いある生活ができるように支援している		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所周辺の散歩や、ドライブを日課の中に取り入れできるだけ戸外に出かけるように取り組んでいる。近所の公園に、昼食持参で行くなど戸外で食事を楽しむ事もある。また、散歩中に近所の人と挨拶を交わすことも外出の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで日中は開放している。玄関にはチャイムをつけ開閉がわかるよう工夫している。玄関近くのフロアーに、ソファを置き、外出したい人と一緒に散歩したりソファに休んでいただくなどして、本人の行動を尊重しながら見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年に2回避難訓練を実施している。緊急時の連絡網、マニュアルを作成しており職員は共有している。また緊急時の協力依頼のために、町内一軒ごとに事業所の所在地や電話番号などを印刷したちらしを配布するなどして働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間ごとに献立を作成して食事提供している。一緒に食事をしているため、摂取量は把握しており記録もしている。水分摂取量は目測の記録で、一日摂取量の記録はされていない。	○	献立はバランスよく作成されているが、時々栄養士にカロリーのチェックをしてもらうことも望まれる。水分摂取は、健康保持のためにも正確な摂取量を把握して記録してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の建物を改造した事業所なので、ハード面では不便なところもあるが居心地よく過ごせるよう配慮してフロアーを有意義に活用している。共用フロアーには季節感がある作品や、小物を展示して四季を楽しみながら過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた馴染みの寝具、家具、ベット、カーテン、小物など自由に持ち込んでいる。その人らしい居室となっていて、居心地よく過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。